

日本思想史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	3	金曜4限
日本思想史概論	読書からみえる日本思想史	2	引野 亨輔	4	金曜4限
日本思想史基礎講読	日本の木版本を読む	2	引野 亨輔	3	金曜2限
日本思想史基礎講読	近代文語文による文章を読む	2	片岡 龍	4	火曜2限
日本思想史各論	水平社・西光万吉論Ⅰ	2	片岡 龍	5	月曜3限
日本思想史各論	お葬式 of 思想史	2	引野 亨輔	5	火曜4限
日本思想史各論	水平社・西光万吉論Ⅱ	2	片岡 龍	6	月曜3限
日本思想史各論	「旅」の日本思想史	2	引野 亨輔	6	火曜4限
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔	5	水曜3限
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔	6	水曜3限

科目名：日本思想史概論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本思想史入門

2・授業の目的と概要：日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

3. 学習の到達目標：日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1
- 第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2
- 第3回：丸山眞男「日本の思想」
- 第4回：加藤周一「雑種文化」
- 第5回：加藤周一、幽霊と語る
- 第6回：加藤周一『日本文学史序説』1
- 第7回：加藤周一『日本文学史序説』2
- 第8回：原爆体験の結晶化（丸山眞男）
- 第9回：戦後知識人の限界と見直し
- 第10回：竹内好と沖縄、思想と運動
- 第11回：沖縄から「戦前」・「戦中」・「戦後」を見る（阿波根昌鴻1）
- 第12回：平和と生命（阿波根昌鴻2）
- 第13回：生活記録運動（鶴見和子1）
- 第14回：水俣病運動（鶴見和子2）
- 第15回：災禍と「生前退位」（平成天皇・皇太后）

5. 成績評価方法：レポート [50%] 出席 [50%]

6. 教科書および参考書：教科書：資料配布

参考書：丸山 眞男（著）、杉田 敦（編集）『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）

7. 授業時間外学習：小レポート（3回）の準備を中心に、教科書・参考資料（授業時に配布）を学習する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史概論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LB45401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：読書からみえる日本思想史

2・授業の目的と概要：かつて思想史研究は、著述に込められた作者の真意を読み取ることに力点を置いて進められてきた。しかし、近年盛んになりつつある「読書の文化史」に影響を受け、思想史の方法は大きく変化した。まず、書肆によって書物に施される諸工夫が、読者の読解に大きな影響を与えるものとして注目されるようになった。さらに、読者たちの多様な「誤読」こそ、実は著述の意味生成に大きく関与していることも明らかになった。そこで、本授業では、こうした成果を踏まえつつ、作者・書肆・読者の緊張関係のなかで展開している日本思想史の新たなかたちを探究する。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、「読書の文化史」に関する基礎知識を身に付けるとともに、多様な視点から日本の諸思想を考察できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンスー「読書の文化史」の可能性ー
- 第 2 回：黙読から音読へ、卷子本から冊子本へ
- 第 3 回：寺院版から商業出版へ
- 第 4 回：京都書肆と仏書出版の隆盛
- 第 5 回：江戸時代のベストセラー作家ー井原西鶴を事例としてー
- 第 6 回：売れる教養書の登場ー貝原益軒を事例としてー
- 第 7 回：共有知の誕生ー『徒然草』・『源氏物語』を事例としてー
- 第 8 回：共有知の拡大ー『太平記』を事例としてー
- 第 9 回：文化東漸ー京都と江戸ー
- 第 10 回：江戸の文化プロデューサー 葛屋重三郎
- 第 11 回：貸本屋と行き渡る書物知
- 第 12 回：蔵書家の誕生
- 第 13 回：近代社会と黙読文化
- 第 14 回：近代的書物知の到来
- 第 15 回：まとめ

5. 成績評価方法：この授業は、期末試験 60%、授業への参加度 20%、小レポート 20%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。

参考文献は授業中に随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、受講生は適宜自主学習に努めること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業では、小レポートの提出などを、Classroom を通じて実施する予定です。受講生は必ず Classroom に登録してください。

科目名：日本思想史基礎講読

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LB35202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI208J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本の木版本を読む

2・授業の目的と概要：江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗的な書物が数多く出版され、それらは社会に大きな影響を与えた。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に出版された幾つかの木版本を読んでもらい、基礎的な史料読解能力と伝統的な文化への理解力を身に付けてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に著された通俗的な書物を解読できるようになることと、木版本から江戸時代の文化的な特徴を理解できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンスー江戸時代と商業出版ー
- 第 2 回：女訓書を読む①ー『女実語教』と居初津奈ー
- 第 3 回：女訓書を読む②ー『女実語教』と江戸時代の諸思想ー
- 第 4 回：女訓書を読む③ー『女大学』と貝原益軒ー
- 第 5 回：女訓書を読む④ー『女大学』と江戸時代の現実ー
- 第 6 回：古典注釈書を読む①ー『徒然草諺解』と学問入門書ー
- 第 7 回：古典注釈書を読む②ー『徒然草参考』と仏教的世界観ー
- 第 8 回：古典注釈書を読む③ー『徒然草抄』と兼好法師ー
- 第 9 回：古典注釈書を読む④ー『経典余師』と四書ー
- 第 10 回：古典注釈書を読む⑤ー『経典余師』と近思録ー
- 第 11 回：パロディー文学を読む①ー『好色一代男』と井原西鶴ー
- 第 12 回：パロディー文学を読む②ー『仁勢物語』の笑いー
- 第 13 回：パロディー文学を読む③ー『尤之双紙』と江戸の教養ー
- 第 14 回：パロディー文学を読む④ー『修紫田舎源氏』の世界ー
- 第 15 回：まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、1 人 1 回担当する課題発表 40%、各授業中に実施する史料読解チェック 30%、小レポート 30% の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない（課題となる木版本のコピーを授業ごとに配付する）。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。
全受講生は、課題史料を事前に読解しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史基礎講読

曜日・講時：火曜2限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代文語文による文章を読む

2・授業の目的と概要：近代文語文による文章を精読し、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、横井小楠（よこいしょうなん、1809-1869）の文章を読む。

3. 学習の到達目標：日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) オリエンテーション
- 2) 輪読と対話
- 3) 輪読と対話
- 4) 輪読と対話
- 5) 輪読と対話
- 6) 輪読と対話
- 7) 輪読と対話
- 8) 輪読と対話
- 9) 輪読と対話
- 10) 輪読と対話
- 11) 輪読と対話
- 12) 輪読と対話
- 13) 輪読と対話
- 14) 輪読と対話
- 15) 輪読と対話

5. 成績評価方法：平常点（発表・対話への参加度）[70%] 出席点 [30%]

6. 教科書および参考書：教科書～『横井小楠 遺稿篇（クラスルームに掲示）。
参考書～授業時に適宜紹介する（プリント配布）。

7. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史各論

曜日・講時：月曜3限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：森崎和江研究 I

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には詩人・ノンフィクション作家の森崎和江（1927-2022）の思索を通じて、彼女が生きた時代の朝鮮と日本を中心に、当時の思想・文化的課題について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：森崎和江について

第3回：『まっくら 一女鉦夫からの聞き書き』

第4回：『非所有の所有』

第5回：『第三の性 一はるかなるエロス』

第6回：『ははのくにと幻想婚』

第7回：『闘いとエロス』

第8回：『異族の原基』

第9回：『匪賊の笛』

第10回：『からゆきさん』

第11回：『光の海のなかを』

第12回：『ふるさと幻想』

第13回：『遙かなる祭』

第14回：『産小屋日記』

第15回：『対話 魂ッ子の旅（野添憲治との対談集）』

※第3～14回のテキストは、森崎和江の著作からの例示
定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史各論

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LB52401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：お葬式の思想史

2・授業の目的と概要：近親者の死は深い悲しみをもたらすものであるが、その出来事と向かい合うことで、人類は様々な弔いの文化を創り出してきた。時代や場所が変われば、当然弔いの文化もその姿を変える。そこで、本授業では、日本のお葬式に関する論文を受講生たちに精読させ、お葬式からみえる日本人の死生観の変化について深く考察してもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、日本における葬送儀礼の歴史的変遷について基礎知識を獲得するとともに、死をめぐる文化の成立とその意義について深く考察できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス—日本の死生観研究と葬送儀礼研究—
- 第2回 日本のお葬式概観—新谷尚紀『お葬式』を読む—
- 第3回 古代の葬送儀礼“魂呼び” —佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む①—
- 第4回 古墳の思想—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む②—
- 第5回 死に臨む儀式—小山聡子『往生際の日本史』を読む—
- 第6回 死骸が遺棄された中世都市—勝田至『死者たちの中世』を読む①—
- 第7回 死体遺棄と自然葬のあいだ—勝田至『死者たちの中世』を読む②—
- 第8回 共同墓地の形成—勝田至『死者たちの中世』を読む③—
- 第9回 死者を浄土へ誘う儀式—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む③—
- 第10回 死穢観念と僧侶—松尾剛次『葬式仏教の誕生』を読む—
- 第11回 葬式仏教と近世社会—尾藤正英『江戸時代とはなにか』を読む—
- 第12回 近世日本の儒学者と葬送儀礼—黒住真『近世日本社会と儒教』を読む—
- 第13回 明治政府のイデオロギーと葬送儀礼の変容—森謙一『墓と葬送の社会史』を読む—
- 第14回 再び葬式が行われない社会へ—鶴飼秀徳『無葬社会』を読む—
- 第15回 まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：全受講生は、課題論文を事前に精読し、決められた期日内にミニットペーパーを提出すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史各論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：森崎和江研究Ⅱ

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には詩人・ノンフィクション作家の森崎和江（1927-2022）の思索を通じて、彼女が生きた時代の朝鮮と日本を中心に、当時の思想・文化的課題について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：森崎和江について

第3回：『海路残照』

第4回：『湯かげんいかか』

第5回：『慶州は母の呼び声 一わが原郷』

第6回：『悲しすぎて笑う 一女座長筑紫美主子の半生』

第7回：『大人の童話・死の話』

第8回：『詩的言語が萌える頃』

第9回：『風になりたや旅ごころ』

第10回：『荒野の郷 一民権家岡田孤鹿と二人妻』

第11回：いのちを産む』

第12回：『いのちの素顔』

第13回：『二つのことば・二つのこころ 一ある植民二世の戦後』

第14回：『いのち、響きあう』

第15回：『北上幻想 一いのちの母国をさがす旅』

※第3～14回のテキストは、森崎和江の著作からの例示

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史各論

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LB62402, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：旅から探る日本思想史

2・授業の目的と概要：見知らぬ土地を旅するという体験は、思想形成の大きな契機を与えてくれるものだが、江戸庶民の思想形成を考える時、旅はとりわけ重要な検討素材になる。というのも、江戸時代とは、庶民層がようやく安心して旅を楽しめるようになった時代だからである。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に記された幾つかの紀行文を読ませ、課題発表と討論を通じて思想形成過程の分析手法を身に付けてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に記された紀行文の読解を通じて、思想形成過程の分析手法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 旅と学び—橘南谿『東遊記』を読む①—

第3回 旅人からみた東北—橘南谿『東遊記』を読む②—

第4回 江戸時代の名所論義—橘南谿『東遊記』を読む③—

第5回 お国自慢の誕生—橘南谿『東遊記』を読む④—

第6回 郷土の礼讃と軽蔑—橘南谿『東遊記』を読む⑤—

第7回 江戸時代の地域比較—橘南谿『西遊記』を読む①—

第8回 旅と怪異—橘南谿『西遊記』を読む②—

第9回 異なる自然環境—橘南谿『西遊記』を読む③—

第10回 日本のなかの「異国」—橘南谿『西遊記』を読む④—

第11回 旅立ちの風景—菅江真澄『いななななみち』を読む—

第12回 旅人と郷土言葉—菅江真澄『あきたのかりね』を読む—

第13回 江戸時代の知識人ネットワーク—菅江真澄『おののふるさと』を読む—

第14回 紀行文からみえる江戸時代—菅江真澄『そとがはまかぜ』を読む—

第15回 まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、1 人 1 回ずつ担当する学生発表 60%、授業への参加度 20%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。
授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史演習

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LB53303, **科目ナンバリング：**LHM-PHI308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

3. 学習の到達目標：卒業論文のテーマの決定

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

5. 成績評価方法：レポート [50%] 平常点 [50%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは 1 週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史演習

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LB63305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

3. 学習の到達目標：卒業論文作成の準備と研究内容の深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：レポート [50%] 平常点 [50%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：ブレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：